

授業科目

助産学実習IV

担当教員名 下山 博子、塚本 康子、中山 和美、山口 典子 他	対象学年	4	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	8	時間数	360

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

授業の概要

分娩期から産褥期・新生児期にある対象者とその家族に対する助産活動に必要な実践力を養う。

授業の目的

分娩期および産褥期・新生児期にある対象とその家族に対して助産過程を展開し、助産診断、助産ケアに必要な知識と技術、態度を実践をととして修得する。さらに、助産活動に必要なケアの理念について考察を深めることを目的に実習する。

学習目標

- 1 分娩期の助産過程を展開（10例程度の正常分娩を直接介助）する。
- 2 分娩間接介助、出生直後の新生児のケアを実践する。
- 3 分娩介助した褥婦と新生児を受け持ち、助産ケアを段階的に実践する。
- 4 助産管理業務の実際から助産師の役割について理解できる。

授業計画

授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
正常分娩介助、助産過程	10例程度の正常分娩の直接介助と間接介助を実践する	下山 博子 他
助産業務管理	助産所において助産業務管理の実際を見学、実践する	下山 博子 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア	町浦美智子	日本看護協会出版会	2015年	3,600円＋税	
参考書	助産学講座7 助産診断・技術学 I I [2] 分娩期・産褥期 第5版	我部山キヨ子、武谷雄二	医学書院	2013年	4,800円＋税	
	今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第3版	北川眞理子、内山和美、生田克夫	南江堂	2013年	8,800円＋税	
	分娩介助学	進純郎	医学書院	2009年	4,800円＋税	
その他の資料	実習要項					

評価方法

実習記録（助産過程評価表・分娩介助実習評価表・間接介助実習評価表）60%程度
実習内容、態度40%程度

履修上の留意点

実習方法等内容の詳細については、実習オリエンテーションで説明します。

8週間の集中実習ですが、正常事例を中心に10例の分娩介助が終了するまで延長となる場合があります。体調管理、学習計画をしっかりと立てて実習に臨んでください。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に指定しません。実習中の報告・連絡・相談は、実習オリエンテーションで説明する方法で密にお願いします。

研究室 K405（第4研究・実習棟4階）

連絡先 hiroko-s@nuhw.ac.jp